

清流

題字：芳野 充

平成29年12月30日

第12号

発行所 加来不動産(株)

発行者 加来 寛

北九州市小倉南区守恒本町1-12-23

穏やかに
静かに
清流のように

自分には厳しく、人には優しく

「約束はやぶるためにある」。そのような言葉を耳にしたことがあります。親として、わたしが決めたルールや約束であれば、わたしはやぶっても構わない。ルールや約束は子どもに守らせるためであって、親はその対象にはならない、と。

しかし子どもたちが小さいころはそれでも通用しましたが、成長してくるとそうはいきません。先日、町内行事で小学生の子どもたちと接する機会があったのですが、ある会話をとおして子どもたちから「大人はそうやって言うけど、すぐに約束をやぶるやん。信用できん！」と言われました。子どもたちからみた大人像とは、なんとも低いものだ、正直ショックを受けました。

思いやりの行動を具体的にあらわした「日常の心がけ」の中に、「約束規則はかならず守る」という項目があります。大人であるわたしたちが、言った約束をかんたんに破るようでは、子どもたちから信頼されるとは思えませんし、ましてや尊敬とは縁遠い存在かもしれませぬ。

わたしたち大人はこのことを重くうけとめ、行動していく必要があるような気がします。ですが、約束や規則は、得てして自分が上の立場になったとき、あるいは自分と近い存在であるときに、軽いものとなる傾向にあるようです。とくに家族、そして自分自身との約束も例外ではありません。

毎年十二月にはいると、今年初めにたてた抱負のふり返りをおこないます。一番近い存在であるわたし自身との約束事は、やはり自分に都合のよい言い訳を、上手にならざる傾向にあるようです。その姿はお世辞にも立派とはいえませぬ。

また来年（平成三十年）もこの反省をいかし、抱負という名の、自身との約束事を決め実行していきます。その際には、自分には厳しく、人には優しく、を自然体でだせるような存在に近づき、まずは家族（妻と子どもたち）から信頼され、また尊敬される存在になりたいと思います。

加来 寛

